

平和記念だより



◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念館

◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号

たかまつミライエ5階

TEL: 087-833-2211 FAX: 087-833-2244

高松市戦争遺品展

7月20日（木）～26日（水）、市民交流プラザ IKÔDE瓦町 展示コーナーにおいて、第27回高松市戦争遺品展を開催しました。



戦時中の日常をテーマにした今年は、日の丸のついた木製キックスクーターや高射砲の絵柄のついた子ども用茶碗、戦車や戦闘機の絵柄のちゃんちゃんこなどを中心に、パネルも含め収蔵品計131点を展示しました。

当時10歳だったという女性が、「田んぼのあちこちが激しく燃えた恐怖の光景は、72年前のことながら鮮明に記憶している」と語ってくださり、「現在の平和な暮らしがありがたい」と言い添えられました。戦争を体験された方々のご来場も多く、「焼夷弾の残骸を拾うアルバイトをしていたよ」と、集束焼夷弾のレプリカの前で話して下さる方もいらっしゃいました。

沖縄での平和学習を予定している中学生数名が、何度も説明を聞き、熱心に学習していました。

また、昨年に引き続き同会場にて、日本ユニセフ協会のご協力によるパネル展も同時開催しました。



さわれるコーナーで展示品を着用してくれた中学生（暑い中ありがとう!）



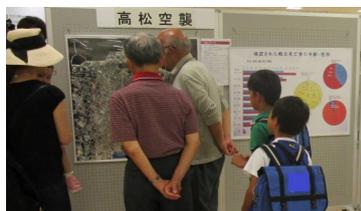
連日の猛暑のさなか、ご来場いただき誠にありがとうございました。



高松市戦争遺品展にご来場の方々のようす・感想



「最近の寄贈品」を展示したコーナーでは、多くの方が「遺書」に見入っていました。戦地に旅立つ父親が、幼い姉妹にやさしく語りかけるように書きのこしたものです。



戦後70年以上経っていますが、今こそ戦前日本のあり方についてふれたほうが良いと思いました。戦争の話は何度も聞いていますが、平和の尊さを知ってもらう機会なので、これからもぜひ続けて開催してほしいです。

(40歳～50歳代 男性)

写真を見ながら当時を思い出して涙の出る思いになりました。

(70歳代以上 女性)

当時、自宅が郊外の仏生山にあり直接の被害はなかったものの、4歳だった私は、近くの小高いところにあった神社から燃えさかる空襲を見たことをはっきりと覚えています。

9歳の頃、仏生山から高松の中心地へ、自転車で遊びに行っていました。親友のお父さんが栗林町で自転車屋さんを経営していたので、そこに自転車をあずけては築港まで歩いて行ったものです。

写真や遺品が平和の大切さを強烈に告げてくれました。

(70歳代以上 男性)



アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

高松戦災・原爆写真展 7月27日(木)～8月2日(水)開催

『高松市戦争遺品展』に引き続き、今年も高松市平和を願う市民団体協議会主催による『高松戦災・原爆写真展』が開催され、高松空襲や、広島・長崎の被爆の惨状を伝えることで市民に平和の大切さを呼びかけました。

高松空襲写真展 7月1日(土)～10日(月)開催

第27回高松市戦争遺品展に先立って、高松市平和記念館の映像学習室で、高松空襲の被災写真・パネル・絵画を展示しました。

高松市平和記念館では平和学習を含め、平和について考えるイベントを継続的に開催しています。



親子記者 長崎で取材！ 8月8日(火)～11日(金・祝)

「日本非核宣言自治体協議会」(事務局：長崎市平和推進課)主催の「親子記者事業」に高松市在住の山根さん親子が選ばれ、**まずは高松市平和記念館で高松空襲を取材**

市立新番丁小学校4年生の山根識結君^{しきぶ}とお父さんの健作さんが、8月8日から4日間の日程で、長崎市で平和祈念式典や平和への取り組みを取材して新聞づくりをしました。



「ほくは、今まで平和について深く考えたことがありませんでした。平和祈念式典に参列して、平和な世界をつくるために、核兵器根絶が不可欠であると分かりました。世界中には核兵器がたくさんあります。それがなくなるまで、しっかりと行動していきたいです。」

(ナガサキ・ピース・タイムズ第10号より抜粋)

*本市も加盟する「日本非核宣言自治体協議会」は、全国の300を超える自治体で組織され核兵器の廃絶と恒久平和の実現を呼びかけています。

今後の行事予定

高松市平和記念館 開館1周年記念事業

～写真展 戦争と海を渡った人形たち～

【日時】平成29年11月18日(土)～11月26日(日)

【場所】高松市平和記念館 映像学習室(たかまつミライエ5階)

1927年に日米親善のために交換された人形たちが、太平洋戦争中や戦争後に歩んだ流転の歴史を写真やパネルでご覧ください。

高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

【日時】平成29年11月1日(水)～11月7日(火)

【場所】庵治コミュニティセンター



※ 高松市平和記念館 ご利用案内 ※

開館時間：9：00～17：00

休館日：毎週火曜日、年末年始

入館料：無料

資料貸出：DVD・VHS及び遺品等一部の資料の貸し出しをおこなっています。

詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ先：高松市平和記念館 TEL(087)833-2211

戦時用語解説54

軍人勅諭(ぐんじんちよくゆ)

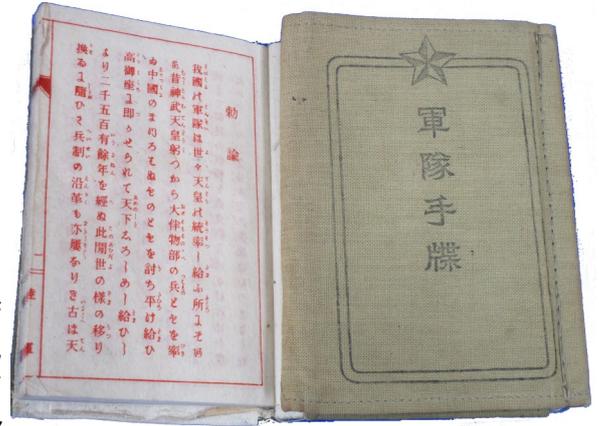
明治15年(1882年)1月4日に全軍人に対して出されたこの軍人勅諭は、正式には「陸海軍軍人ニ賜ハリタル勅諭」といい、「我国の軍隊は世々天皇の統率し給う所にぞある・・・」に始まり、「朕一人のよろこびのみならんや」で終わる。陸軍総帥の山縣有朋が原案を作り、文人福地源一郎が作文したといわれ、数千語に及び流麗な漢和調の和文から成っている。

- 一、軍人ハ忠節ヲ尽スヲ本分トスベシ・・・
- 一、軍人ハ礼儀ヲ正シクスベシ・・・
- 一、軍人ハ武勇ヲ尚ブベシ・・・
- 一、軍人ハ信義ヲ重ンズベシ・・・
- 一、軍人ハ質素ヲ旨トスベシ・・・

これら五箇条の道德律の柱が示され、結語では、軍人は「ひとつのまごころ」が大切で、これらの軍人精神は表裏のない誠実さによって実行されると結んでいる。終戦まで軍人教育の基本として全将兵に丸暗記させるなど徹底的な普及が図られた。

(提供者：岸上賢二様)

参考文献「日本軍隊用語集」 寺田近雄 著



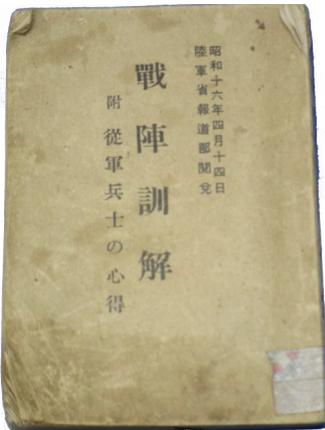
收藏品紹介55

《最近の收藏品より》

【軍隊手帳・戦陣訓】 提供者 岸上 賢二様

軍隊手帳は、軍隊入隊時に手渡される身分証明書で、兵士の住所・氏名・所属部隊名・等級と軍歴等の個人の記録が記入されている。表紙を開けると朱色に印刷された長い「軍人勅諭」がある。

入隊中には本人は所持せず、中隊毎に人事係が保管し、除隊の時に本人に返却された。在郷軍人として故郷にいるときは奉公袋に入れて保管し、簡閲点呼(かんえつてんこ)の際にはこの手帳を持参しなければならなかった。この軍隊手帳には、提供者の父親が昭和12年に入隊し、昭和20年9月に召集解除になるまでの履歴が克明に記録されており、中国の海南島を中心に、各地を転戦したことがうかがえる。



戦陣訓は、戦場へのぞむ兵士の心得として、1941年(昭和16年)1月8日、時の陸軍大臣東條英機の指示により作成されたものである。「皇軍道義の高揚」を目的としたものではあるものの、「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残す勿れ」(敵軍の捕虜になるような恥すべきことはするな)という一条が特に絶対視され、捕虜になることが厳しく否定されたことから、戦争末期には各地で「玉砕」(全滅死すること)をもたらすこととなった。

編集メモ

「たかまつミライエ」に、平和記念館がオープンして、まもなく1年になります。

寄贈品をお持ちいただいたり、展示品をご覧になりながら当時を語っていただくなど、来館者のみなさまに、あらためて感謝申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



▼ホームページアドレス(平和啓発の推進事業がご覧いただけます)

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>